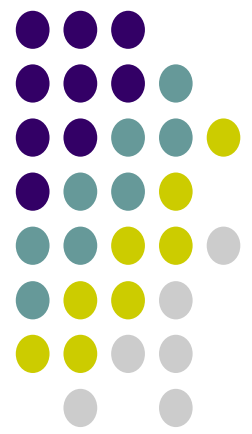




## フェローシップ・ニュース NO.18



### HIV感染予防パンフ作成事業



#### 日本初！薬物依存症者向けのHIV予防事業をスタート

平成18年度三菱財団社会福祉事業から助成金を受け、「薬物使用者に対するHIV感染予防資料作成事業」をスタートさせることになりました。薬物依存症者本人をはじめ、依存症治療に関わる医療関係者やエイズの専門家などが中心となり、薬物依存症者向けのエイズ予防パンフレットを作成します。薬物依存症者が自然に手に取れるような、当事者の視点に立ったわかりやすいパンフレットを目指したいと思います。

#### 〔薬物依存症者とエイズ〕

薬物依存症者は、注射器の共有や無防備なセックスを続けることにより、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染する可能性があります。HIVは血液や粘液を介して感染するウイルスですから、注射器を用いる薬物依存症者は、特に感染のリスクが高いと言えます。全国の精神科医療施設を対象にした調査(注)から、覚せい剤患者の約4割がC型肝炎ウイルス（HIVと同様に血液を介する感染症）に感染しており、注射器の共用も多くの方が経験しています。

薬物使用を感染経路とするHIV感染者数（これはあくまで氷山の一角ですが）は、それほど多くない現状にありますが、適切な予防サービスが行われていないと、薬物依存症者の間で今後エイズが大流行する可能性は否定できません。そこで、アパリはこれらの問題に対応すべく全力をあげて取り組んでいきたいと思ひます。

#### 贈呈式

〔9/13（水）於：三菱クラブ〕

平成18年9月13日（水）三菱クラブにおいて助成金贈呈書の授与式が行われました。小坂文部科学大臣が来賓として出席され祝辞を述べられました。アパリから代表して近藤恒夫理事長が助成金の目録を受け取りました。今回、社会福祉事業の応募総数は225件あり、その内46団体が助成を受けることになりました。選考委員より審査経過の報告があり、どの団体も素晴らしい内容で選考にあたっては非常に苦労したとのことでした。

贈呈式に続いて立食パーティーが行われ、三菱財団の増田理事長や石崎常務理事から激励の言葉をかけていただき、また私たちから感謝の気持ちを伝えました。アパリが三菱財団から助成をいただくのは3度目になります。この場を借りまして深く御礼申し上げます。



左から石崎常務理事、増田理事長、上岡陽江さん、嶋根研究員、近藤恒夫



左が近藤恒夫、右がダルク女性ハウス上岡陽江さん

ダルク女性ハウスも助成を受けました。

特定非営利活動法人  
アジア太平洋地域アディクション研究所

発行日  
2006年9月1日

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所（Asia-Pacific Addiction Research Institute）の略称です。

全国のDARCやMACの各施設、福祉・教育・医療・司法関係者と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

#### 目次：

三菱財団助成事業 事業内容・贈呈式	1
カメルーン大臣訪問 JCCA仙台・定例会報告	2
シンガポール学会 報告・・・志立	3
中国の刑務所・施設 訪問記・・・尾田 総会報告	4 ~ 5
藤岡からのメッセージ・・・サル	6
藤岡の夏・・・サム	7
アパリからの お知らせ	8

（注）和田清、他.薬物乱用・依存者におけるHIV感染の実態とハイリスク行動についての研究.厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV感染症の動向と予防モデルの開発・普及に関する社会疫学的研究（主任研究者：木原正博）」平成16年度総括・分担研究報告書.2005.244-265.

# カメルーンより大臣が訪問



## 日本ダルク・アパリ東京本部

8月28日(月)午前にかメルーンの世界問題担当大臣のバカン氏が日本ダルクとアパリ東京本部を訪れました。これは国際協力機構(JICA)から紹介され実現したものです。大臣は日本の実情について熱心に尋ねられ、この自助的な活動について強い関心を示していました。

カメルーンでの社会問題は、青少年のシンナー問題で、特にストリート・チルドレンがシンナーを使っていることに心を痛めているとのことでした。理事長の近藤は、自分たちに何かできることはないか、せめてメッセージだけでも届けられないだろうかとの思いで、来年のカメルーンで子供の日に当たる6月に現地を訪れる約束を交わしました。近藤恒夫とアパリ・ダルクの一行は、6月にカメルーンを訪問します!

(この報告も本誌で掲載する予定です。)



右から2番目がバカン大臣：日本の薬物事情について熱心に話を聞かれるバカン大臣

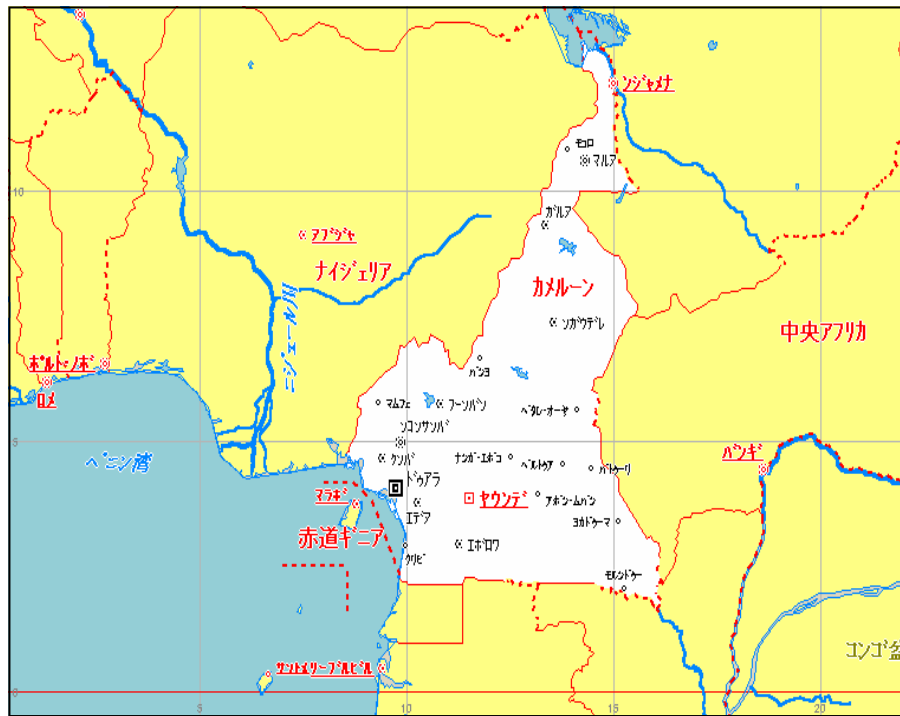


日本ダルクのメンバーと記念撮影：座っている中央がバカン大臣

### 国際協力活動 (フィリピン・ミンダナオ島の支援)の進捗状況のご報告

ただ今、JICAに対し最終的な提案書を提出するところまでできています。当初の計画よりもだいぶ遅くはなりましたが、一歩ずつ前に進んでいます。

この事業が正式に採択されることをアパリ・スタッフ一同願っています。



### カメルーン 豆知識

首都：ヤウンデ  
人口：1,604万人(2004年)  
場所：中部アフリカ。中央アフリカとナイジェリアに挟まれている。  
公用語：フランス語、英語、各部族語。  
宗教：カトリック、プロテスタント、イスラム教等。  
民族：ドゥアラ族、バミレケ族、バムン族、フルベ族等。  
主な産業：農業(コーヒー、ココア、綿花) 林業(木材)、鉱工業(石油)

## JCCA(ジャパン・カトリック・コミティ・オン・アクション) IN 仙台 全国のマック・ダルク 定例会・研修会

8月27日~28日、仙台において全国のマックやダルク、ワンデーポートなど依存症のリハビリ施設のスタッフが集まる会議に参加してきました。アパリ東京本部からは古澤・志立、藤岡研究センターからは平山が参加しました。

27日は恒例のJCCA信仰セミナーに始まり、定例会では、今年入会する和歌山ダルク・鳥取ダルクなど7施設の紹介があり、全て承認され新たに加わりました。委員長を務めていたロイ神父が今年1月に亡くなられたので、役員も変わり、新体制になりました。

28日には菊池病院の原井宏明先生による「モチベーション・インタビューング(動機付け面接)」の研修が行われ、とても興味深い内容に皆さん真剣に聞き入っていました。

(JCCAのホームページ: <http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Yurinoki/9792/>)

# シンガポールでアディクション学会

## 第2回アジア太平洋地域アディクション学会に参加して

報告：志立玲子

日時：2006年9月3日～5日 場所：フラマ・リバーサイドホテル シンガポール

シンガポールにおいて、第2回アジア太平洋地域アディクション学会が開催され、アパリからは尾田、志立、ワンデーポートから川嶋氏、大谷大学の滝口教授、さいたま市こころの健康センターの小川氏など計7名が日本から参加しました。

1日目は、アルコール・薬物・ギャンブル問題についての基調講演があり、スピーカーとして英米の研究者が来ていました。参加国はアジアの中でも英語圏が多く、イランやイスラエル、ニュージーランド、オーストラリアからも来ていました。内容はプログラムの評価研究に関するものが多く、当然のことながら全て英語のため理解するのに苦労しました。

2日目の午前には各団体の報告があり、滝口教授に続き、ワンデーポートの川嶋氏から報告がありました。ワンデーポートからは、日本初のギャンブルのリハビリ施設の活動についての報告がありました。世界的にもギャンブルに特化したリハビリ施設は珍しく、興味を持たれたため質問が飛び交いました。3日目の午前の一番最後がアパリの報告でした。事務局長の尾田が英語のレジュメとパワーポイントを用意し、日本の薬物事情と司法制度、日本におけるリハビリ施設の現状について報告しました。藤岡の施設の定員や平均年齢、女性はどうするのかなどの質問がありました。

3日目の夜にはカンファレンス・ディナーに申し込み会場のホテルからチャーターバスに乗せられ郊外へと連れて行かれました。どう見てもレストランやホテルには見えない、手入れの行き届いた庭のある、学校のようにも見えるその施設は「突破」という薬物依存症のリハビリ施設でした。英語名は「Breakthrough Missions」といい、キリスト教色が濃く、建物内には立派なチャペルがあり、毎日礼拝が行われているようでした。他にも木工室、コンピュータールーム、展示販売室、オペレーター室、床屋の椅子が備えてあり、施設はとても充実していました。木工・工芸品の質の高さにも驚きましたがそこで作られた作品を市内のホテルでも展示販売をし、収益を得ているということにも驚かされました。

この学会のディナーがこのリハビリ施設の中庭で行われることは参加者には知らされていなかったもので、到着するまで誰もここに連れて来られるとは予想していませんでした。とんだサプライズでした。中庭でのパーティーでは、入寮者と卒業生がバンドの演奏を披露してくれました。歌や演奏がとても上手く、その音楽を聞きながら北京ダックやヌードルなどの中華料理をいただきました。想像していたカンファレンス・ディナーを遥かに越えたものになり、貴重な体験をすることができました。

シンガポールではやっている薬物を聞いたところ、スブタ(Subutex)というヘロインの代替薬に使われるとてもハードなドラッグだそうです。手足を切断する人もいるというのを聞き驚きました。

### 「シンガポールの人気スポット」

シンガポールの観光名所で真っ先に思い出すのは、マーライオンですが、今は「世界三大がっかり」の一つと言われています。今の人気は、シンガポール動物園とナイトサファリです。動物は夜行性が多いので、トラム(大きなバスのようなもの)に乗りながら夜のジャングルを探検するような感覚です。これは圧巻です。日本のものとはスケールが違うのでこれはオススメです！



学会会場にて：左から小川氏、滝口教授、川嶋氏、尾田



学会での報告：尾田事務局長



カンファレンス・ディナーの会場：リハビリ施設「突破」の中庭

### 「薬物依存」DVD販売中！

アパリが作成したDVDで本人の体験談や、近藤恒夫の話が約30分間収められています。学校での薬物乱用防止教育、行政の職員の研修で利用されています。

1枚 3,000円

FAX：03-5830-1791

メール: info@apari.jp

ご希望の方はご住所、お名前、電話番号をご記入の上お申込下さい。



シンガポール動物園にて

# 中国の刑務所・施設訪問記

報告：事務局長 尾田真言

平成18年8月24日～29日の日程で、大学院時代の恩師、中央大学の藤本哲也教授とその弟子達総勢14名の「日本法律家代表団」の一員として、上海の矯正施設の参観ツアーに参加する機会を得ました。紙数の都合でその一部をここでご紹介します。

宿泊は、華東政法学院 (East China University of Politics and Law) のゲストハウス。

8月25日(金)

上海市監獄所 (写真 )

移動はすべてマイクロバス。午前中に1901年にイギリスが建築した上海市監獄所を参観。受刑服は年に3回交換。髪型は自由だがパーマと染めることは禁止。上海監獄総医院という病院が刑務所内にあった。受刑者数3000人(内女性は30人)だということ。無期懲役と死刑の受刑者は2人部屋に収容されている。400房あるという。3年前から受刑者が心の悩みを手紙で訴えることができるようになった。共有スペースに3種類のポストが置いてあって、それぞれ検察官宛、刑務所長宛、官区長あての刑務所への不満を投書できるようになっている。入浴は、1回50名ずつで、夏は毎日1日30分入浴可能(日本は週に3日、1回15分)、冬は週2回。風呂が一番の楽しみだから緊張しながら入るものではないという。印刷工場を入り口付近から見学する。その後、講堂に案内され、受刑者の歌と踊り、和太鼓の演奏を聴く。刑務所の警備は警察官が担当している。管理職は皆、法律職で警備は担当しないという。

上海市公安局強制戒毒所(The Drug Rehabilitation Bureau of Shanghai Police) (写真 )

ゲストハウスに戻って昼食後、午後から上海市公安局強制戒毒所を参観。麻薬乱用者を被害者と捉えられ、行政上の措置として身柄を拘束して治療する施設。薬物乱用者が発見するとすぐにこの施設に入院させ、血液検査等の健康診断を行い、解毒等の内科的治療を行うとともに、集団及び個別カウンセリングを行うなど薬物依存症回復に向けた取り組みが警察段階でなされている。日本はまだ違法薬物乱用者に対して刑罰を科すだけで、回復への取り組みがほとんどなされていないので、この分野は中国の方が進んでいる。施設は全805床で、最初の15日間で身体検査、解毒治療。その後3ヶ月以内のプログラムを実施。その後、さらに必要のある人を2000床の別な施設に移すのだという。日課は6時起床、21時就寝。男女比は4対1。心理健康教育、全体教育、個別教育、ヘロイン中毒者に対するメサドン療法に加えて新しい療法を探しているという。漢方薬や針治療を併用。健康診断、歯科治療、レントゲン、エコー、血液検査ができる設備が中に入った。被収容者は黄色のシャツ、茶色のズボンを着用している。1部屋10床(2段ベッド×5)で鉄格子が入っている。7階のフロアを参観したが、女子のユニットで22ユニット=220人あった。4階フロアには、心理治療室、針治療室があり、治療を受けている被収容者がいた。

上海少年法廷 (写真 )

その後、1984年11月に中国第1号として創設された少年法廷を参観。中国では18歳未満が少年。シン裁判官から、立派な革張りの椅子のある会議室で説明を受ける。少年の法廷は刑事法廷とは峻別されている。少年裁判の原則は、懲罰ではなく教育優先、改造、救いである。中国の社会主義の裁判官として、子供は国家の宝という観点から、親対子、医者対病人、先生対生徒の関係で対応している。少年の人権保護を図るため、北京ルール、児童権利条約等の国際準則も遵守している。少年法廷の構成員は、合議審では、3人の裁判官、単独審(簡易審)では、1人の裁判官と特別に要請された参審員による。中国の刑法では16歳以上は完全責任があるが、8種類の故意犯の場合にのみ14歳以上で刑事責任を負う。14歳未満は責任能がなく刑事処罰できない。少年審判の手続は原則非公開だが、16歳以上18歳未満の場合、裁判所長の許可の下、一定の人数に限定して公開することがあるという。保護者の参加は必須。少年弁護に当たる指定弁護士は無料。教育や量刑に役立てるべく、裁判所の下部組織として青少年保護の委員(公務員)がおり、生活環境、家庭・学校・地域での状況についての社会調査を行う。裁判の中に教育の手続を必ず入れなければならない、裁判終了時に裁判所による教育が開始される。裁判を受けた少年に裁判官の連絡先電話番号



上海市監獄所



上海市公安局強制戒毒所



- 1 旧少年法廷



- 2 上海少年法廷

を教えるなど全身全霊で一人の少年に関わっているという。また、他害行為をしないようにさせるという教育目的から、被害を宥恕している被害者から被害当時の心境を話してもらうことも行っている。少年処罰の原則として、刑は必ず減刑する、1997年新刑法 成立により、18歳未満の未成年者に対する死刑が廃止された。法廷の構造も従来は写真 -1の様になっていたが、今後は写真 -2の様のひとつの円形テーブルで審判を行うようにし、少年が裁判で圧力を受けにくくするように配慮するという。

8月26日(土)

上海市少年刑務所(Shanghai Juvenile Reformatory) (写真 )

午後は、上海市少年刑務所に行く。上海の人口は2千万人だが、少年刑務所はここだけである。少年刑務所の目的は懲罰ではなく教育を行うことにある。仕事がなければ再犯に走ることになるので、パソコンや生花などの資格を取得させている。現在の被収容者580人(男性564人、女性16人)中、18歳未満は267人(46%)、18歳以上は313人(54%)。罪名別では、強盗399人(68%)、窃盗78人(13%)、傷害33人(5%)、強姦18人(3%)、薬物7人(1%)。職員総数は208人で、うち、専門家心理相談員が20名。箱庭療法、個別カウンセリング、8人での集団カウンセリングを実施している。2005年3月から心理相談を開始し、毎月月末に心理療法士と直接相談したりe-mailで相談できる。親族は1ヶ月2回面会可能だが、地方在住者は金がかかるので事実上面会できない。そこでインターネットを介してビデオ面会ができるようになってきている。この点は日本よりはるかに進んでいる。新聞検閲はないという。なぜなら中国では発行の時点で検閲されているからということだった。会議室で説明を受けた後に、刑務所内の資料室を見学、その後、講堂で少年受刑者たちと教官による吹奏楽、ダンス、太鼓等の演奏を聴く。出所後は親が引き受けるのが普通ということだが、引受拒否はないのかとの質問に対しては、一人っ子政策を採っている中国では考えられず、拒否されたことは1件もなく、子どもに対しては社会全体が大事にしているとのだという。



上海少年刑務所

## アパリ総会&近藤理事長バースデー 8/20

8月20日(日)14時からアパリ東京本部で、アパリの総会が開かれました。ちょうどこの日は近藤理事長の65歳の誕生日であったため、参加者全員で祝福しました。

総会には、新しく理事となった元警察庁の島田尚武理事や、新会員の元近畿更生保護委員会委員長の北澤会員などが加わり、自由に意見を述べ合う機会がありました。



理事長 近藤 恒夫

島田理事からは、今までずっと薬物事犯の取り締まりを厳しくやってきたが、それだけではダメだということを実感している。現職を離れたら、アパリやダルクの支援をしたいと常々思っていたとのことでした。

また、北澤会員からは、当事者における自助活動の大切さをしみじみと実感しているとのお話がありました。

近藤理事長からこんな質問がありました。麻薬取締官に逮捕された情報と、警察に逮捕された情報はリンクされていない。職務質問で免許証を見せたときに、麻薬取締官に逮捕された犯歴は確認できない。しかし警察に逮捕されたことのある人は照会をすれば犯歴がわかってしまい、腕を見せるなどと言われてしまう。これはおかしくないか?という質問であった。これについて島田理事から、法務省と厚労省とは管轄が違うため、情報を共有することができない。しかし検察庁では全てが明らかになるので裁判のときには嘘をついてもバレてしまう。情報は共有した方が、取り締まりや安全対策の面ではメリットがあると思う。例えば薬を使ったまま運転して、事故を起こすことを未然に防げるかもしれない。しかし北澤会員からは、個人の匿名性を守るためにも情報を共有しない方がいいのではないかという意見もあった。

家族の立場の会員からは、いろんな立場の人の話を聞くことができ、貴重な機会が持てたとの感謝の言葉がありました。

今年特に力を注ぐ活動として、三菱財団の助成金によるプロジェクト「HIVの感染予防パンフ作成事業」や、またJICAとの協働における「フィリピン・ミンダナオ島支援」のプロジェクトの進捗状況についても報告がありました。

アパリ発行  
「Born・Again (ボーン・アゲイン)」  
体験談 販売中!

2005年5月に第2版が発売になりました。  
体験談が13人分収められています。  
アパリではこの本を拘置所や刑務所にいる人の差し入れ用として使っています。

1冊 1,500円  
(会員価格:1,200円)

お申込はメールかファックスで  
FAX: 03-5830-1791  
メール: info@apari.jp  
ご住所、お名前、電話番号をご記入の上お申込下さい。

## アパリ藤岡研究センター 入寮者からのメッセージ

サル 30代 男性

### 受刑中の皆様へ

この度、カウンセラーの変更に伴い、受刑中の通信教育が少しの間滞っておりました。新しい教材を使い、再開する予定ですのでもうしばらくお待ち下さい。

事務局長 尾田真言

### 監獄人権セミナーのお知らせ

「薬物依存症者に対する社会内処遇プログラムの発展を目指して」

平成18年12月9日(土)  
14時～16時半  
場所:明治大学リバティ  
タワー1001教室  
次号のフェローシップ  
ニュースで詳細をお知  
らせします。

主催:監獄人権センター

僕が初めて薬を使った時は高校生の時で、友達が作ってくれた大麻クッキーを食べたのがきっかけで、初めはただのクッキーかと思ったのですが一時間位たったら気分が良くなって、「なんだこれは!？」と聞いたら大麻が入っているとってこんなにもいいものが世の中にあるのか、というのが実感でした。

初めのうちは、買わないで誰かが持っているところへ行って、もらいました。最初は大麻も麻薬だと思っていたので友達には「やめなよ」と止めていた自分がいつのまにかはまってしまいました。

大麻を吸うと食べ物も美味しいし、気分もいいし、これはやめられないなと思いました。だけど、自分が少しでも不安な環境にいるとバッドトリップ(いわゆるグロッキー状態)して寝ちゃったりしていました。

大学4年のときに買うのがバカらしくなり、ついには、「マリファナ」という本の裏に「大麻の育て方」というのが書いてあってそのとおり育ててみたら本当に作れてしまったのですが、捨てられず、元彼女の家で育てていました。

ある日、元彼女から電話があって「空き巣に入られた!!」と連絡があり、僕はまさきに大麻の栽培の事を思い出しました。車で160km/h位で走り、警察が来る前に処分しなきゃと思ってなんとか警察が来る前に処分できたので良かったです。

もしそこで見つかったら、その場で現行犯逮捕だったでしょう。それからしばらくは育てるのをやめて、売人から買ったり悪友から分けて売ってもらったりしていました。

大学に入学してフィンランドに演奏旅行に行った時、イタリア系フィンランド人と仲良くなり、家に遊びに行ったら大麻があって、ノーザンライト(ブランド名)を吸ってご飯をごちそうになりました。その頃から少しずつブランド名を知るようになり、渋谷の雑貨屋で種を売っているのを見るようになりました。

やがて就職するのですが、対人関係のストレスから自律神経失調症になり、また鬱になり元彼女と遊びに行くのも辛くなり、また大麻を吸うことになりました。その頃から、MDMAも使い出したのがきっかけで鬱がひどくなったのでしょうか。

MDMAは、就職した頃はクラブで踊りに行くときに使うもので普段は使っていませんでした。その頃は、会社もやめて家の仕事を手伝っていました。会社に就職した時は、分からない事だらけでそのストレスから使うようになりました。MDMAは高揚感がすごくある半面鬱になりやすく、身体も壊し、その頃から処方薬をもらうようになりました。

初めのうちは精神科っていうのをなんだかおかしな人ばかりいるのかと思っていたのですが、ドクターが優しい人だったので、言われたとおりに飲んでいました。睡眠薬をビールで飲むようになり、もうどん底の状態、一週間家出をして、処方薬が切れて、不安定な気持ちになり、全てが嫌になり、死ぬにも死にきれず家に帰ることになりました。

警察に捕まったきっかけは、CD20枚を万引して、荷物検査で大麻樹脂とMDMAができてしまったからです。それで渋谷の警察に留置されてしまいました。

ところがこりずに執行猶予中に3ヶ月目で栽培していた大麻とこれから植える種を持って走行中に西麻布の交差点で検問に会い、前科があるので荷物検査をされると言われ、車の中から大麻が出てきて、また、捕まってしまいました。

結局それが元で、刑務所にいくことになるのだけれど、僕は24歳の時に捕まって、途中で26歳の誕生日を迎え、2つの刑務所を経験しました。1つ目の川越少年刑務所は全てが厳しくて、地獄のようでした。幸いな事に僕の高校の同級生で中学が一緒の奴がいて、そいつが面倒をみてくれたので、辛くはなかったし、イジメはありませんでした。そこで26歳の誕生日が終わって2ヶ月位したら、2つ目の黒羽刑務所に移送されました。作業は簡単で毎日が早かったです。

アパリを知ったきっかけは麻布の留置所で同室の先輩から近藤恒夫さんの『薬物依存を越えて』を読んで、このような場所があるなら本当にクスリがやめられるかもしれないかとも思い、藁をもすがる思いでアパリに連絡しました。

実際にアパリに来た当初は、処方依存になっていて、飲まないとおかしくなってしまう状態が続いていましたが、少しずつ薬の量も減ってきて、おかげ様で今では1日3回のミーティングで少しずつ発言も出来るようになってきました。

僕は東京という街が嫌になって、もう2度とやらないと心に誓ったので釧路のおじさんのところにお世話になって少しずつ実社会に出て行こうと考えております。クスリの怖さも知ったし、これからはクリーンな生活が今日一日というスローガンで、使わないでいろんなことが楽しめるようにやっていきたいと思っています。

みなさんもクリーンを続けていって下さい。

**お知らせ！！**

**アパリ藤岡研究センターの運営・管理は日本ダルク・アウェイクニング・ハウスに委託しています。**

## 藤岡だより 夏・・・

### サム

8月の群馬県は渋川の腹踊りに始まって花火大会、新町祭り、藤岡祭りイベント盛りです。アパリメンバーには夜はNAミーティングですのでちょうど見られません。むしろ祭りにはお酒が付きものなので行かないほうが安全です。盛り上がって、赤城山の施設に入院なんてなるかも？

群馬の暑さは半端じゃありません。8月3日には36.5度になりました。さらにアパリの移動用の車の冷房はこわれています。その車にむさくるしい男が5人も乗って1時間半かけてミーティングに行っています。いずれアパリ専用になるだろうと言われているゴルフコース（アパリに隣接する客のいない）も日本一暑いコースとも言われているくらいです。ダイエットしたい方は是非ワンハーフ（9千円）回ってみて下さい。

毎週木曜日は、近くの川の遊泳スポットにいけます。バンジージャンプの出来る場所、小魚たちと泳げる場所、落ちたら死ぬかも知れないダムの上、バーベキューには絶好の浅瀬、藤岡の名水の出る神社などなどいろいろです。私は水も冷たいので最初は岩場に座っていましたが、足を滑らせデジカメごと川に落ちました。冷たくて気持ちいい。水辺は川藻の独特の匂いが気になりましたが名水の中で泳ぎました。アユ漁も解禁されており、釣り人もいっぱい訪れています。

8月27日は、NAの花火大会が前橋で開催する予定が雨のため延期になり、9月3日に前橋の利根川の河原でやりました。打ち上げ花火の連発で、周りを圧倒する火力でした。人に向けて打ち上げ花火はしないようにいったのですが・・・。

アパリの夜も更けてミーティングの帰り道、だいたい夜の10時頃になるのですが、ゴルフ場のカート道が公道を横切っています。そこに骸骨の4人のゴルファーが口をカタカタ鳴らしながら我々の車の前を通ります。マイケル・ジャクソンの世界。アパリの209号室にはオーブが舞っています。写真家のメンバーが写真撮影した証拠もあります。9月5日、2人の仲間が円満退寮していきました。朝の10時頃だったのですが、皆でデジカメで記念写真を撮りました。皆で写り具合を見てみると人の顔ぐらいの大きさのオーブが1つ仲間の肩の辺に写っていました。小さなオーブも3～4個写っていました。みんな絶叫！僕らの前には、何も見えませんでした。キツネやタヌキの霊魂かもしれないませんが、やはりここはスピリチュアルなところですよ。みなさんも行き詰ったら僕らのスピリチュアルな山で癒されませんか？

**緊急告知！！**

**第4日曜日の家族教室はしばらくお休みします。**

**アパリは5階に引っ越しました！**

今までいたサニーハイツ東上野の1階から同じビルの501号室に移りました。

エレベーターもないためご不便をおかけいたしますが、何卒ご了承ください。

なお、郵便物は今までの住所で構いません。



藤岡の入寮者全員で大掃除



焼却炉の前で



特定非営利活動法人  
アジア太平洋地域アディクション研究所

### アパリ東京本部

〒110-0015  
東京都台東区東上野6-21-8  
電話：03-5830-1790  
FAX：03-5830-1791  
メールアドレス：info@apari.jp

### アパリ藤岡研究センター

(運営：日本ダルク・アウエイキング・ハウス)  
〒375-0047  
群馬県藤岡市上日野2594番  
電話：0274-28-0311  
FAX：0274-28-0313

#### 【入寮条件】

- 1、薬物依存から回復・自立しようとしている本人
- 2、男性(年齢制限なし)

#### 【入寮期間】

基本的に9ヶ月

#### 【入寮費】

月額16万円(生活保護の方も可能)



ホームページもご覧下さい  
(新しくなりました)  
<http://www.apari.jp/npo/>

発行者：近藤恒夫  
編集責任者：志立玲子  
平成18年9月1日発行  
定価 1部 100円

## <アパリの司法サポート>

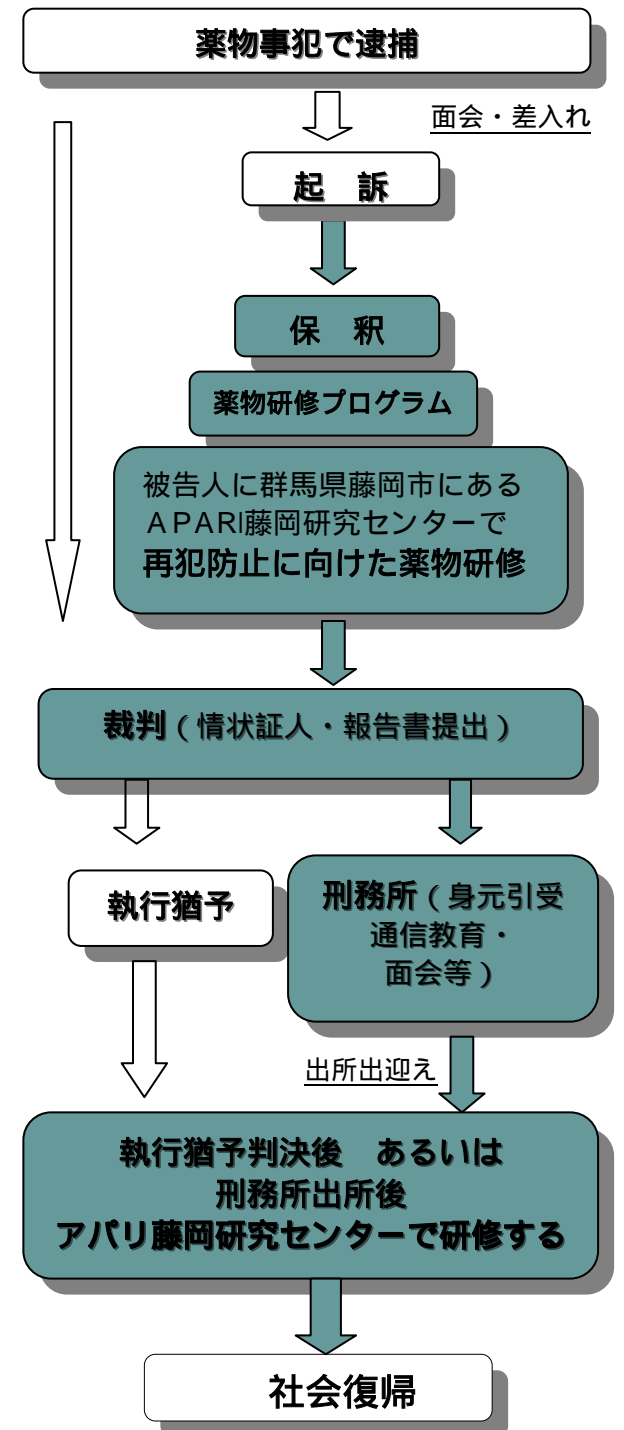
《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま 執行猶予の判決をもらって、また薬物のある日常に戻るしかない日本において初めて、**刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。**

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本における薬物事犯の再犯率は50%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は**5%以下**です。最近では特に、**受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に**出迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

[費用：コーディネート料として一律20万円。但し、東京以外の地域は交通・宿泊費の実費が必要です] お問合せは東京本部まで

## アパリでの支援



## <家族教室>

### 「エクステンディッド・ファミリー・クラブ」

対象：薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者

日時：第1・第3月曜日 18:30~21:00

場所：アパリ東京本部 2階

参加費：3,000円

【お問合せは東京本部まで】

## アパリ 新会員募集中!!

新規会員(正会員・賛助会員)を募集いたします。ご入会していただいた方には、会報「フェローシップ・ニュース」を毎月お送りします。また、書籍購入の割引や公開講座・フォーラム、自助グループ開催に関する情報提供等、様々な特典がございます。

年会費 正会員：12,000円  
賛助会員：6,000円

## <個別相談・カウンセリング>

対象：薬物依存症などの諸問題を抱える家族・本人など。出張カウンセリングは相談の上、実施可能かどうか判断させていただきます。(料金は別途必要)

【費用】45分 9,000円

【場所】アパリ東京本部 501号室

【カウンセラー】町田 政明

[神奈川県立せりがや病院のケースワーカーとして活躍、ホープヒル代表、寿アルク理事]

#### 【カウンセリングの日程】

9/20(水)、10/2(月)、10/18(水)、いずれも14時、15時、16時、17時からです。

#### 【予約】

電話でお申し込み下さい。03-5830-1790

#### 【注意事項】

当日のキャンセルや変更の場合は全額いただきます。遅れていらした場合は時間が短くなりますのでご了承ください。

## <薬物依存症・家族対応セミナー>

平成18年11月23日(祝) 10:00~16:00

参加費：6,000円

場所：アパリ東京本部 2階

講師：町田 政明、回復者スタッフ